

平成 23 年 3 月 28 日

株主各位

会 社 名 株式会社メディビックグループ
 代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
 (コード番号 2369:東証マザーズ)
 問合せ先 執行役員管理本部長 門井 豊
 (Tel: 03-6415-4031)

「東北地方太平洋沖地震」で被災された方々の支援に関するお知らせ ～ 研究者・研究機関等のバイオ検体保管支援 ～

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によりお亡くなりになられた方々のご遺族の皆様にご挨拶とお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

平成23年3月25日、神戸医療産業都市構想研究会（神戸市や大学・研究機関などで構成）は東北地方太平洋沖地震の被災者支援策として、被災されたライフサイエンス関連分野等の研究者・研究機関等に対し、研究を継続していくために必要なインフラ（研究スペース、共同利用機器や設備など）を提供することにより支援を行うと発表いたしました。

当社グループは、従来から神戸市の財団法人先端医療振興財団と共同で「臨床研究情報センター（TR I）」におきまして検体保管事業を運営しておりますところ、この度、研究支援の趣旨に基づき、神戸医療産業都市構想研究会より当施設が支援協力施設のひとつとして支援依頼を受けました。

当社グループといたしましては、神戸医療産業都市構想研究会の趣旨に賛同するとともに、地震の影響により設備を損壊した、あるいは停電の影響により電力量が充分確保できずバイオ検体を適正に保管・管理できないなどお困りの研究者・研究機関等の皆様を対象に、TR I内の検体管理施設においてバイオ検体を一定期間「無償」にてお預かりさせていただくことといたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

1. 支援活動の内容 ※記者提供資料より一部抜粋

①	対 象	○東北地方太平洋沖地震災害により被災を受けた地域のライフサイエンス関連等の研究者・研究機関等 ○福島での原子力発電所の事故に関し、政府による屋内退避等の指示・勧告が出ている地域内にて、ライフサイエンス関連等の研究開発に従事している研究者・研究機関等 ○その他、地震災害等の影響により研究の継続が困難になるなど、重大な支障をきたしているライフサイエンス関連等の研究者・研究機関等
②	支 援 内 容	バイオ検体の保管・管理 ※検体の種類、サイズ、数量、保管方法等については要個別確認
③	費 用	無償
④	期 間	支援開始日～最大1年間（暫定）

2. 保管施設の概要

臨床研究情報センター（Translational Research Informatics Center 「TRI」）は、神戸市の神戸医療産業都市構想に基づき、トランスレーショナルリサーチを推進するための拠点として、2003年に文部科学省と神戸市によって創設された施設で、先端医療振興財団が管理運営をしています。

TRI内の検体管理施設は臨床試験・臨床研究に必要となるバイオ検体の保管を行っております。本施設は液体窒素タンクや超低温フリーザー等の施設を有し、独自の検体管理システムを用いた、GLPに準拠した検体管理体制で運用されています。本施設では厳格な入室管理システムや、自動温度管理制御、非常自家発電などの施設を有し、2005年より製薬企業などからの検体保管を行っております。

【TRI施設外観】



【液体窒素タンク】



3. 本件に関する受付・お問い合わせ先

■神戸医療産業都市構想研究会事務局（神戸市企画調整局医療産業都市構想推進室内）

■TEL 078（322）0380

■平成23年3月28日（月）～平成23年5月31日（火） 平日9時から17時まで

以 上